

「西郷村第9次高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画」 実績報告について

基本目標1 健康づくり・介護予防の推進

1. 健康づくりの推進

(1) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施

■ 保健事業・介護予防の一体的な実施 《計画書 32 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
健康教室(栄養・口腔)の実施 (回)	10	10	11	21	12	26
75 歳以上の健康教室参加 者延べ人数(人)	100	104	120	145	140	295

【実施内容・実績】

令和3年度より福島県後期高齢者広域連合より受託し実施。健康・医療・福祉について一体的に実施する体制を構築し、老年期においても保健事業を実施することで、生活習慣病の重症化を防ぎ、要介護状態に陥ることを予防するために、個別相談や通いの場での健康教育フレイル予防(運動・栄養・口腔)等を実施。

(令和3年度)派遣地区数 9 地区 参加者数 130 名 栄養 2 回、口腔 8 回

(令和4年度)派遣地区数 13 地区 参加者数 342 名 栄養 10 回、口腔 11 回

(令和5年度)派遣地区数 16 地区 参加者数 364 名 栄養 13 回、口腔 13 回

【自己評価(現状、課題と対応策)】

低栄養、口腔機能低下、健康状態不明者、糖尿病性腎症重症化予防対象者に対して、個別にアプローチを行い、病院への受診勧奨やサービス、健康状態の把握につなげることができた。対象者の中には面談が出来なかった対象者もいたため、信頼関係を構築しながら経年的に支援を行っていく。通いの場については、医療専門職を派遣し、地域の介護予防の取組みの機能強化を図ることで、参加者の主体的な健康増進活動につながった。令和6年度以降はリハビリテーション専門職を派遣し、さらに地域での健康づくりを図っていく。

(2) 生活習慣病予防

①生活習慣病予防

■ 生活習慣病予防 《計画書 32 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
受診勧奨者の医療機関受診率(%)	85.0	87.6	88.0	87.8	90.0	86.8
糖尿病有所見者率(%)	62.0	56.8	60.0	63.1	58.0	60.6
特定健診受診率(実績値/目標値) (%)	48.0	47.1	49.0	47.9	50.0	47.8

KDB 様式 5-2 健診有所見者状況より

【実施内容・実績】

特定健診、各がん検診の受診勧奨を行い、未受診者に対しては個別通知にて受診勧奨を実施し、受診率の向上を図った。令和5年度の特定健診受診率は、47.8%と令和4年度と比べ横ばいだが、実質の受診人数では100名程増加しており、みなし健診のデータ提出者

へのインセンティブ勧奨を実施した為と考える。

受診勧奨者の医療機関受診率は 86.8%と減少しているが、糖尿病有所見者については、受診勧奨対象者(空腹時血糖 126mg/dl及び HbA1c6.5%以上の者で未治療者又は治療中断者(27名))に対して介入し、そのうち治療へ繋がった者が44. 4%と、医療機関へ繋がっている為、重症化予防に繋げる。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

健診受診者のうち、糖尿病重症化予防の基準に該当した方を抽出し受診勧奨を行っているが、今後も治療へ繋がられるよう個別面談、訪問等を通じて実施する。また、その他の重症化予防対象者(高血圧、脂質異常等)へも面談し受診勧奨を行い、有所見者の減少に繋げていく。

②健康増進事業

■ 健康増進事業 《計画書 33 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
健康増進事業(各種検診・教室)の参加者(実績値/目標値)(人)	8,100	8,179	8,200	9,620	8,300	8,564
にしごう健康ポイント事業登録者数(人) ※R5 から「にしGOココカラ元気プロジェクト」に変更	170	146	200	165	230	141

【実施内容・実績】

村民が日々の健康づくりに取り組むことができるよう、ウォーキング、ランニング、血圧測定などのコースから選択し、目標を設定する。達成度合いに応じて、商品券等と交換を行うインセンティブ事業。令和5年度からは、にしGOココカラ元気プロジェクトに名称が変更となった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

生活習慣病予防の知識の普及啓発に加え、自発的な健康づくりの取り組みを促し、健康状態の保持増進を進めることができた。壮年期からの参加者数が少ない現状であるため、より多くの村民が主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、コースや取り組み内容を見直し、健康づくりを普及していく。

(3)一般介護予防事業

①介護予防把握事業(西郷村高齢者福祉トータルサポート事業)

■ 西郷村高齢者福祉トータルサポート事業 《計画書 34 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
訪問件数(件)	6,600	4,881	6,700	5,322	6,800	5,391
調査件数(件)	5,000	3,188	5,100	3,502	5,200	3,469
チェックリスト作成件数(件)	3,400	2,505	3,500	3,076	3,600	1,943

【実施内容・実績】

村社会福祉協議会に委託し、事業を実施。高齢者が自分の住み慣れた地域で安心安全に暮らし続けられるように、高齢者の実態把握調査や各種事業の代行申請、介護予防チェ

ックリストを作成し、介護予防教室の参加促進に繋いでいる。

チェックリストから予防事業(いきいき教室)対象者抽出:580 件

チェックリストから一体化事業へ対象者抽出:72 件

包括支援センターへ繋いだ件数:39 件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

調査員を圏域別ケア会議へ参加させ、地域課題の共有を図り介護保険地域包括ケアシステムの構築や生活支援体制整備へ繋ぐ取り組みや、訪問時に伺った高齢者の声を村管理職会議に報告し、地域課題の庁内共有も行っている。現在、高齢者世帯を優先的に訪問しているが、多世代世帯でも困難課題を抱えているケースも多いことから積極的に訪問を実施し、包括支援センターとの連携強化を図る。

②介護予防普及啓発事業

ア お元気運動教室

■ お元気運動教室 《計画書 34 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
参加者数(人)	86	92	86	62	86	58
参加者延べ利用回数(回)	960	643	960	663	960	528

【実施内容・実績】

体力レベルが比較的高い高齢者を対象に健康運動指導士等による指導によるストレッチや有酸素運動、器具を用いた運動教室を実施。

(令和3年度)開催数:12回実施/12回予定 運動器機能の維持・向上者の割合は91.1%

※1セット×10回×12教室 (5月開始:3教室、8月開始:2教室、10月開始:3教室、1月開始4教室)

(令和4年度)開催数:100回実施/100回予定 運動器機能の維持・向上者の割合は87.8%

※1セット×10回×10教室 (5月開始:3教室、9月開始:4教室、12月開始:3教室)

(令和5年度)開催数:80回実施/90回予定 ※定員に満たなかったため1教室中止

運動器機能の維持・向上者の割合は95.2%

※1セット×10回×10教室 (5月開始:3教室、9月開始:2教室、12月開始:3教室)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

毎年リピーターの参加率が高く新規参加者の獲得が難しい状況と、夏季開催は人数が集まりにくい傾向であった。今後は運動不足になりがちな冬季に教室実施を検討し計画していく。より多くの方に介護予防に取り組んでもらうため、新たな介護予防事業を展開し、専門職による知識の普及啓発を行い住民が主体的に介護予防や健康づくりに取り組むことができる支援を行っていく。

イ いきいき教室

■ いきいき教室 《計画書 35 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
参加者数(人)	115	131	115	70	115	69
参加者延べ利用回数(回)	1,152	801	1,152	739	1,152	822

【実施内容・実績】

ADL（日常生活動作）の低い高齢者を対象に、専門職による運動器と口腔機能の指導や訓練を行う軽運動教室を実施。

（令和3年度）開催数：76回実施/80回予定 ※コロナで4回中止

運動器機能の維持・向上者の割合は 77.0%

※通年コース 5回×4セット×2グループ（5月開始）

※新規コース 10回×2教室（10月開始：1教室、1月開始：1教室）

（令和4年度）開催数：70回実施/70回予定 運動器機能の維持・向上者の割合は 74.1%

※通年コース 5回×4セット×2グループ（6月開始）

※新規コース 10回×2教室（10月開始：1教室、1月開始：1教室）

（令和5年度）開催数：60回実施/60回予定 運動器機能の維持・向上者の割合は 86.4%

※通年コース 5回×4セット×2グループ（5月開始）

※新規コース 10回×2教室（10月開始：1教室、1月開始：1教室）

【自己評価（現状、課題と対応策）】

新規参加者から通年参加者へ一部移行しているが、受け入れ人数のキャパが少ない状況。参加者の中には介護認定されている方もいるなど、どのレベルに合わせて指導をするかが課題である。また、高齢者福祉トータルサポート事業での介護予防基本チェックリストを活用した新たな介護予防事業展開も課題としてあげられる。

③地域介護予防活動支援事業（シニア活動支援事業）

■ 地域介護予防活動支援事業 《計画書 36 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
シニア活動支援事業派遣箇所（地区）	11	10	12	14	13	15
介護予防サポーター人数(人)	33	31	42	41	51	52

【実施内容・実績】

シニア活動支援事業は、地域でのサロンや健康運動教室等の自主活動の通いの場に、健康運動指導士の派遣を実施。

また、介護予防サポーター養成講座は、地域における高齢者の積極的な健康づくりや介護予防への取り組みを応援するボランティアの育成を目的に実施。

（令和3年度）

新規養成講座：7人 開催数：2回実施/4回予定 ※コロナで2回中止

フォローアップ 養成講座：10人 開催数：3回実施/4回予定 ※コロナで1回中止

（令和4年度）

新規養成講座：9人 開催数：4回実施/4回予定

フォローアップ 養成講座：12人 開催数：4回実施/4回予定

(令和5年度)

新規養成講座：10人 開催数：3回実施/3回予定

フォローアップ養成講座：11人 開催数：2回実施/2回予定

【自己評価(現状、課題と対応策)】

講師派遣日のみ活動する地区もあるなど自主的な活動内容に差が生じており、講師派遣ありきになっている地区もある状況。講師または専門職の関りが無いと存続できない地域もでてくるのではとの課題があげられる。今後、新たな取り組みとして、介護予防サポーターと保健師が地区で主体的に取り組める運動指導や健康講話を実施し自主活動を支援していく。

④地域リハビリテーション活動支援事業

■ 地域リハビリテーション活動支援事業 《計画書 36 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
専門職派遣回数(回)	2	0	3	0	4	9

【実施内容・実績】

地域リハビリテーション連絡調整(県事業)を活用し、村内居宅介護支援事業所や通いの場にリハビリテーション専門職を派遣することで、ケアマネジャーの資質向上や介護予防の促進を図るもの。

(令和5年度)

専門職派遣回数：9回(参加者81名) 派遣職種：理学療法士、作業療法士

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域リハビリテーション活動支援事業を活用し、専門職を派遣することによるフレイル予防や介護予防につなげることができた。各通いの場へ複数回の派遣を検討しているが、専門職の人数等からも難しいため、通いの場に対して1回は派遣ができるよう調整を図る。また令和6年度からは理学療法士、作業療法士に加え言語聴覚士も派遣できるよう連携をしながら、引き続き通いの場へ知識の普及・啓発を行っていく。

2. 介護予防・日常生活支援総合事業の充実

(1) 介護予防・生活支援サービス事業

訪問型サービス、通所型サービス

■ 訪問型サービス、通所型サービス 《計画書 37 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
訪問型サービスA実施事業所	0	0	0	0	1	0
通所型サービスA実施事業所	0	0	0	0	1	0

【実施内容・実績】

平成29年(2017年)4月に、介護予防給付であった訪問介護・通所介護を本サービスに移行した。

緩和したサービス事業実施につきましては、生活支援体制整備事業や、地域ケア会議等を活用し、地域のニーズにあったサービスが提供できるよう事業所等と協議を重ねてきたが、採算性、人員の確保の問題もあり実施には至っていない。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

移行前の訪問・通所介護に相当するサービスを引き続き行うほか、村民の方が多様なサービスを選択できるよう、訪問(通所)型サービスA(緩和した基準によるサービス)の実施を目指していく。他のB(住民主体による支援)、C(短期集中予防サービス)、D(移動支援)については、生活支援体制整備事業や地域ケア会議等を活用しながら地域の実情を把握した上で必要性を検討していく。

3. 生きがいのづくりの支援

(1) 生涯学習

■ 生涯学習 《計画書 37 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
人生楽園クラブ延べ参加人数(人)	—	208	—	391	—	645
人生楽園クラブ参加実人数(人)	90	79	140	73	190	96
きらり学び講座延べ参加人数(人)	340	250	340	337	340	263
〃 参加実人数(人)	50	53	50	62	50	65

【実施内容・実績】

生涯学習推進の一環として、趣味の講座及び特別講座で教養を身につけ、交流、健康増進を図るため、高齢者学級である「人生楽園クラブ」及び「きらり学び講座」を開催している。

人生楽園クラブは、趣味の講座(茶道、編み物、健康麻雀等)について、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により4回の実施に留まったが、令和4、5年度は予定通り7回実施し、新たな講座も追加した。また、コロナ禍前に実施していた研修旅行については令和5年度より再開した。きらり学び講座は論語・俳句・短歌等を題材に、3～5年度とも毎年10回開催した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

新型コロナウイルスによる活動制限の緩和、5類移行により、令和4、5年度は計画通り事業を進められた。また、人生楽園クラブの一環である研修旅行は5年度に再開し、2回開催できた。

新たな講座内容の追加等、参加しやすい環境づくりに努めているが、高齢化による参加者減少の課題を抱えており、継続して魅力ある企画運営を図ることで参加者を増やし、交流を活性化することが求められる。

(2) スポーツ・レクリエーション

■ スポーツ・レクリエーション 《計画書 38 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
健康パドル体操参加延べ人数(人)	650	267	650	405	650	317
健康麻雀教室延べ参加人数(人)	30	0	30	2,008	30	2,801

【実施内容・実績】

健康パドル体操及び健康麻雀は、過去に公民館講座へ参加した方々がサークルを組織し、自主運営で活動を行っている。

健康パドル体操は、令和3年度の活動回数は43回、4年度は68回(週2回)、5年度は45回(週1回)で推移している。健康麻雀は、新型コロナウイルス感染対策の観点から令和2、3

年度は活動休止となっていたが、令和4年度より週3回ペースで活動を再開し、4年度は166回、5年度は192回の活動実績があった。また、近隣地域との健康麻雀交流会も積極的に開催し、活動の広がりを見せている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

コロナウイルスによる影響が弱まり、精力的に活動が再開されている傾向にある。
しかし、ほぼ平日昼間の活動であることから、参加者が固定化されており、高齢化等による参加者減少が従来以上に懸念され、新たな加入者を増やすことが求められる。そのために各種団体の活動が円滑に進み、活性化できるよう、幅広い支援を継続していく必要がある。

(3) 老人クラブ活動

■ 老人クラブ連合会 《計画書 39 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
会員数(人)	225	212	230	166	235	172
年間活動回数(回)	50	62	70	117	90	103

【実施内容・実績】

西郷村老人クラブへの助成を通して仲間づくりや健康づくり、社会奉仕やその他の地域活動等、自らの生きがいを高める様々な活動を支援している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

コロナの影響は落ち着きを見せており、活動が再開されている傾向にある。会員数は増加となり、高齢者の社会参加へつながっている。
高齢者の健康づくりや生きがい活動の継続のため、活動を支援し、会員数増加に努めていく。

(4) ボランティア活動

■ ボランティア活動 《計画書 39 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
子どもの安全見守り隊員登録者数(人)	85	82	85	82	85	88
地域づくり勉強会の開催(回)	1	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

地域づくり勉強会は生活支援体制整備事業の一環として、地域の課題について住民が主体的に解決を図れるように実施するもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域づくり勉強会を通して、地域の体操教室が新たに立ち上がる等の成果を上げているが、より参加者が主体的に地域の課題解決を図れるよう事業の重要性を啓発する必要がある。

(5)シルバー人材センター

■ シルバー人材センター 《計画書 40 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
会員数	150	152	155	157	160	166
受託・派遣受注件数(件)	1,400	1,258	1,500	1,336	1,600	1291
受託・派遣契約金額(千円)	49,000	61,329	50,000	68,909	51,000	77,649

※公益社団法人白河・西郷広域シルバー人材センターのうち西郷村分の数値を抽出

【実施内容・実績】

高齢者の就業機会の増大と生きがいの充実を図るとともに、高齢者の経験と能力を活かした活力ある地域社会づくりを行うため、公益社団法人白河・西郷広域シルバー人材センターに運営費の一部を補助支援している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

シルバー人材センターへの支援を通して、就労等による高齢者の社会参加に繋がっている。

しかし、業務の受託事業件数の増加により、現在の会員数では人員が不足していることと、会員の高齢化が課題となっている。普及啓発として、シルバー人材センター事業の地域浸透を図るため、「会員募集のチラシ」や「シルバー人材センターの紹介パンフレット」を各所に配備するなど、引き続きPR活動を行っていく。

基本目標2 地域包括ケア体制の充実

1. 地域包括ケアシステムの構築

(1) 地域包括ケアシステムの強化

■ 地域包括ケアシステムの強化 《計画書 41 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
村内における医療・介護従事者の多職種連携会議(回)	1	1	1	1	1	1
村民向け包括ケア講演会(回)	1	0	1	0	1	0

【実施内容・実績】

地域包括ケアシステムの強化に向けて、在宅医療・介護の連携については、白河地域在宅医療拠点センターに委託し、多職種とネットワークを構築して普及へ努めた。

また、圏域別ケア会議を開催し、地域での認知症高齢者の見守り体制整備について協議し、体制構築に向けて検討した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の増加と共に認知症高齢者の増加が見込まれており、地域での生活を支えるためには村民が参画し、多職種が連携して支えることが重要となる。

民生委員との情報共有の場である圏域別ケア会議を核として、村関係機関と協議を重ねながら、高齢者、障がい者、子どもなど支援が必要な地域住民を、村や関係機関、村内の団体・事業者などが協力して、業務や日常生活の中でさりげない見守りをしていただく体制づくりを始めた。生活支援協議体の活動方針や地域の協力体制を構築し、村全体で地域の高齢者を包括的に支える地域づくりを目指していく。

(2) 地域ケア会議の開催

■ 地域ケア会議 《計画書 42 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
地域ケア会議(個別地域ケア会議含む)の開催(回)	15	13	15	14	15	39
自立支援型地域ケア会議の開催(回)	5	5	5	5	5	4
地域ケア会議(圏域別)(回)	3	2	3	2	3	1
地域ケア会議(村全体)(回)	1	0	1	0	1	0

【実施内容・実績】

自立支援型地域ケア会議は要介護者の自立を目指すことを目的に、支援内容の検討や見直しを図るとともにケアマネジャー等の資質向上を図るもの。

また、圏域別ケア会議は高齢者を支援するために民生委員と村関係機関が情報交換等を図るもの。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

自立支援型地域ケア会議については、助言等がパターン化し個別性を欠くことの無いよう、主介護者を含む家族の会議参加を促すことで、要介護者の更なる自立につながった。さらに翌年度モニタリングを行うことで、支援内容の検討を行った後の新たな課題についても協議し、ケアマネジャーの資質向上につながった。

地域ケア会議(圏域別)については、高齢者に関するだけでなく、障がい者や子供についても情報や意見交換が求められる。今後も関連事業との連携も含め、その活用方法を検討していく。

2. 高齢者を支える地域の体制づくり

(1) 見守り支え合う地域づくりの構築

① 見守り安心ネットワーク事業

■ 見守り安心ネットワーク事業 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
事業利用世帯(世帯)	210	198	215	185	220	168

【実施内容・実績】

高齢者等に対し緊急通報主装置、ペンダント型送信機、見守りセンサー、火災警報器、回線内蔵型コントローラー等のシステム機器を貸与し、24 時間体制で急病、火災、事故等の緊急時に迅速かつ適切な対応を行うとともに、村、地域包括支援センター、民生委員その他の協力機関が連携して高齢者等の見守り等を実施し、当該高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるようにする。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

村が契約している事業者のうち一社は安否確認の際に固定電話回線を用いる必要があったが、固定電話回線の廃止に伴う事業の終了や、利用希望者が固定電話回線を利用していなかったために実施に至らなかった事例が見られたが、令和 5 年 12 月よりデータ通信型の機器が導入され、固定電話回線が無い場合でも利用可能となった。

また、民間企業等による高齢者等の見守りサービスの増加もあり、本事業の利用者は減少傾向にある。今後も事業の周知に努め、利用者の状況や社会情勢などを鑑み、柔軟に対応できるようにする。

② 高齢者見守り活動事業

■ 高齢者見守り活動事業 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
協定締結数(社)	6	6	6	7	7	7

【実施内容・実績】

高齢者の見守り活動として、7つの企業と協定を結んでいる。

また、村社会福祉協議会では、民生委員の協力により、ひとり暮らしの高齢者に配食サービスを実施し見守り活動を行っている。

令和5年度の配食サービスは726件実施し、訪問時の安否確認や声掛けを行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後は、高齢者のみ世帯に限らず、地域における見守りの強化を図っていく必要がある。そのため、障がい者、子どもも含め村民が安心して生活できる体制を整えていくため、西郷村地域見守りネットワーク事業を立ち上げ、関係機関及び企業との連携を進めていく。

③ 住民主体のサロン

■ 住民主体のサロン 《計画書 43 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
いきいきサロン実施地区 (箇所)	10	10	11	10	12	11

【実施内容・実績】

地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「いきがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場所となっている。また地域の介護予防の拠点となる場所でもある。

活動実績としては、趣味活動や、健康づくり・介護予防にも取り組んでいる。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

新規地区が立ち上がらないことが課題としてあげられる。介護予防だけでなく、地域でのつながりを深め、互いに支えあう関係づくりにつながる通いの場の拡充を目指し、普及・啓発活動を進めていく必要がある。

④ 西郷村さわか訪問収集事業

■ 西郷村さわか訪問収集事業 《計画書 44 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
訪問実績(延べ人数:人)	1,900	1,919	2,000	2150	2,200	2453
利用者数(人)	36	44	40	48	44	54

【実施内容・実績】

この事業は老衰、身体の障害、疾病等の理由により家庭から排出されるごみを所定のごみ収集所まで搬出することが困難な高齢者等に対し、安否を確認するために継続的に訪問してごみを訪問収集するサービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進する。

訪問収集の中で利用者からの体調不良や不安等の相談事を聞き取り、ケアマネジャー等へつなぐ支援も行っている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

さわやか訪問収集事業の対象者数は例年に引き続き増加している。訪問収集を委託する事業者とも調整を行い、利用可能な人数を把握した上で必要な住民がサービスを受けられるよう、利用者の状況について定期的に把握していく必要がある。

また、事業対象者は、身体機能の低下に加え近隣での協力が得られない方を対象としているため、地域での孤立等がないよう民生委員・地域包括支援センター・高齢者福祉トータルサポートとの継続的な情報共有が必要となる。

⑤生活支援コーディネーターの活用

■ 生活支援コーディネーターの活用 《計画書 45 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
活動の場 訪問回数(回)	48	25	48	28	48	33
地域リーダーの発掘(人)	3	2	5	0	7	0

【実施内容・実績】

生活支援体制整備事業の一環として、地域課題の検討や地域資源の発掘、人材のマッチング等を目的に生活支援コーディネーターを配置している。

また同事業による地域課題の話し合いを実施し、各圏域における課題の抽出を行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

生活支援コーディネーターの業務は多岐にわたるが、その過程で得られた情報等の十分な活用に至っていない。重点化すべき業務を明確にし、今後生活支援体制を整備していく必要がある。

(2)家族介護への支援

①要介護等高齢者介護者激励金支給

■ 要介護等高齢者介護者激励金支給 《計画書 46 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
激励金申請件数(件)	120	76	125	65	130	77
激励金交付件数(件)	110	71	115	65	120	76

【実施内容・実績】

要介護3以上の方を在宅で6か月以上介護している介護者へ激励金を支給する。

(交付件数内訳) 同一世帯：66件 別世帯：10件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年11月に実施したニーズ調査では、介護者が不安に感じる介護として「認知症状への対応」や「夜間の排泄」があげられた。要介護度別でみると、介護者が行っ

ている介護項目数は、要介護度が上がるにつれ多くなる傾向がある。このことから、要介護3以上の方を在宅で介護する介護者の負担増を考慮すると、激励金額の検討が課題としてあげられる。今後も介護者のニーズを鑑みて事業を検討していく。

②家族介護慰労金

■ 家族介護慰労金 《計画書 46 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
慰労金対象者数(人)	1	0	1	0	1	0
慰労金交付率(%)	100	0	100	0	100	0

【実施内容・実績】

要介護4以上の住民税非課税世帯の在宅高齢者等で、過去1年における介護保険によるサービスを受けなかった方を介護している家族へ家族介護慰労金を支給する。

期間中の申請件数：0件

【自己評価（現状、課題と対応策）】

要介護者を在宅で介護する家族の負担は大きいことが考えられるため、介護者の労をねぎらうとともに経済的負担を軽減し、高齢者福祉の増進を図る必要がある。

介護保険制度の地域支援事業であり、任意事業に位置付けられている。財源は地域支援事業の交付金で、受給条件が厳しいことが課題となる。

要介護等高齢者介護者激励金支給事業と連携し、介護者の労をねぎらうとともに経済的な負担の軽減と要介護高齢者等の在宅生活の継続、向上を図り事業内容の周知も行っていく。

3. 地域支援事業の充実

(1) 包括的支援事業の活用

①地域包括支援センターの運営

■ 地域包括支援センターの運営 《計画書 47 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
ケアマネ会議の開催(回)	6	2	6	2	6	3
総合相談支援件数(件)	900	1,358	950	1,341	1,000	1,640

【実施内容・実績】

地域の高齢者が、住み慣れた地域で、安心して、その人らしい生活を継続していくことができるよう、高齢者の暮らしを地域でサポートするための拠点・高齢者の総合窓口として、平成18年(2006年)に「地域包括支援センター」を設置し運営している。

○事業の実施内容

- (ア) 包括的支援事業
- (イ) 第1号介護予防支援事業
- (ウ) 認知症総合支援事業
- (エ) 地域ケア会議の実施
- (オ) 生活支援体制整備事業
- (カ) 任意事業及びその他の業務

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域包括支援センターへの総合相談件数も年々増加してきており、ますます重要性が高まっている。介護支援専門員への支援や指導を実施しながら研修会などへ積極的に参加し、個々のスキルアップを図っていく。

②在宅医療・介護連携推進事業

■ 白河地域在宅医療拠点センター 《計画書 48 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
他職種連携会議の実施回数(回)	4	1	4	2	4	1
村民への講演会・講座 実施回数(回)	4	1	5	8	6	22

【実施内容・実績】

平成 28 年度(2016 年度)より、西白河郡の5市町村が共同で、一般社団法人白河医師会に委託して「白河地域在宅医療拠点センター」を設置し、在宅医療・介護連携に関する相談支援等に当たっている。

村民への講演会・講座についても、例年コミネスで行っている市民講演会1回のほか、令和4年度からはシニア健康教室にて出前講座を実施した。今後もより多くの村民に周知するとともに医療・介護等関係者の更なる連携強化を図る必要がある。

(出前講座実績) R4:7 回 R5:21 回

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後も引き続き、支援を必要とする状態にある高齢者が住み慣れた地域で、尊厳ある自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域の関係諸機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために、円滑な連携の支援を行う。

多職種において顔の見える関係を構築し、通信機器等を活用した、迅速かつ円滑に連携ができる体制を整えるとともに、村民への講演会・講座等により普及啓発に取り組む。

③ 認知症総合支援事業

■ 認知症総合支援事業 《計画書 48 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
認知症初期集中支援チーム支援件数(件)	1	0	2	1	2	0
認知症初期集中支援チーム検討委員会の開催(回)	1	0	2	0	2	0

【実施内容・実績】

認知症になっても出来るだけ長く住み慣れた地域で生活できるよう、認知症の方に早期に関わるため、「認知症初期集中支援チーム」を県南4町村(矢吹町・中島村・泉崎村・西郷村)合同で県立矢吹病院に設置している。令和5年度は認知症初期集中支援チームにおける研修会を行い、情報共有及び対応力向上を図ることができた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

チームの初動までの時間短縮が課題として挙げられていたが、フローチャートや様式等の見直しを行い、よりスムーズに初回訪問が実施できるようになった。

認知症又は認知症の疑いのある方や家族に必要な医療や介護の調整をいつでも行えるよう、引き続き認知症地域支援推進員や地域包括支援センターと連携し、早期に認知症初期集中支援チームにつなげるしていく必要がある。

4. 医療・福祉・介護連携体制の整備

(1) 医療・福祉・介護の連携のための人材の育成等

■ 在宅医療を担う医師数と在宅医療を受ける患者数 《計画書 49 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
在宅医療を担う医師数(人)	15	13	16	16	17	17
在宅医療を受ける患者数(人)	2,000	2,753	2,100	3,152	2,200	—

【実施内容・実績】

本村でも、医療・福祉・介護の分野における人材の育成や確保が課題となっている。そのため、地域の関係団体が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援として訪問診療医等医療と介護を担う人材の確保等に努めている。

西白河郡において在宅医療を担う医師数については、令和4年度に3名、令和5年度に1名が新たに加わった。在宅診療患者数は大幅に増え、看取り者数も増加している。在宅医療を担う医師の確保は今後も重要となる。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

地域の医療・介護の関係団体が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援として引き続き訪問診療医等医療を担う人材の確保等に努める。

特に、白河医師会と連携を取りながら白河市・西白河郡の町村と協力し、在宅医療

の基盤となる訪問診療医の確保に努める。

また、関係機関等と連携して、勉強会、講演会等を開催し介護保険への関心を持っていただき、介護職のイメージ改善を図り介護人材の確保及び育成に継続して取り組んでいく。介護保険事業所等には、国や県で行っている介護職員の処遇改善等積極的に取り組んでいけるよう支援し、人材育成に取り組む評価制度等を活用していく。

地域包括ケアシステムを構築するためには、介護職員ばかりでなく、地域で支え合える担い手等の育成等についても、協議体や地域ケア会議等の場等を活用し、将来の人材の育成についても取り組んでいく。

■ 人材の育成に関する取組 《計画書 49 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
介護に関する講演会	2	0	2	2	2	1
介護人材の育成(人) ※ボランティア等	5	17	8	22	11	22

【実施内容・実績】

介護予防サポーター養成講座は新規参加者を対象とした初級編と過去に参加された方を対象にした上級編に分けて講座を実施し、介護人材の育成に努めた。

また、令和4年度から西白河郡の5市町村が共同でしらかわ介護福祉専門学校を支援し介護人材の育成に努めている。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

これまででは、講演会参加者や介護予防サポーターの活用に至らなかったが、令和6年度からの活用に向け、令和5年度は過去に上級編を受講した介護予防サポーターに向けて、サポーターの活用についての説明を行った。令和6年度からは、介護予防サポーターと村保健師を派遣し、参加者の健康・介護予防に対する意識向上を図っていく。

また、各地域で自主活動が行えるよう介護予防サポーター養成講座を開催し、人材育成に努めていく。

5. 高齢者の住まいの確保

(1) サービス付き高齢者向け住宅等高齢者向けの住まいについて

■ 高齢者向けの住まいの確保 《計画書 50 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
高齢者向け住宅の連携会議(回)	1	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

高齢者の住まいについて、県、住宅担当課、高齢者担当課による連携会議を実施し、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅等の情報について連携を図った。

【自己評価（現状、課題と対応策）】

高齢者のみ世帯が増加していることに加えて、持ち家の老朽化や迅速にサービスを受けられない地域に住んでいる等、高齢者の住まいのあり方が課題になっている。

村内には、サービス付き高齢者向け住宅が2か所あり、介護度が重い方も多数入居している。令和6年4月には新たに特別養護老人ホームが開所するため、介護度が重度な方は特養施設に入所しやすくなると予想される。今後は、各々の身体の状態にあった住まい環境を確保していく。

基本目標3 高齢者福祉の充実

1. 生活支援サービスの充実

(1) 高齢者生きがい活動支援通所事業

■ 高齢者生きがい活動支援通所事業 《計画書 51 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
登録者数(人)	3	3	4	0	4	0
利用実績(延回数)	100	39	110	0	110	0

【実施内容・実績】

在宅で生活する介護保険対象外の高齢者に対し、西郷村デイサービスセンター「ふれあいの家」「やすらぎの家」にて通所各種サービス(入浴、食事、生活指導、健康チェック等)の提供を行っている。高齢者の交流と仲間づくり、健康づくり、介護予防、閉じこもり解消等の支援につながっている。

令和3年度の途中までは登録者が3名いたが、その後介護保険に移行し、現在登録者人数は0名である。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

平成29年4月より開始された総合事業と連携し、デイサービス通所以外の生きがいづくり、社会参加への提供について検討が必要となる。

利用者が総合事業及び介護保険に移行し、減少する傾向にある。必要とする方がサービス利用へ繋がるようトータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく。

(2) 訪問理美容サービス事業

■ 訪問理美容サービス事業 《計画書 52 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
申請者数(人)	14	10	15	10	16	12
助成券発行枚数(枚)	50	32	55	37	60	40
事業利用延べ回数(回)	25	20	27	27	29	26

【実施内容・実績】

理・美容院に出向くことが困難な65歳以上の在宅高齢者や、要介護4以上の認定を受けた方を対象に、訪問による理美容サービスの出張費用を助成してる。申請者については、継続利用として定期的な利用実績につながっている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

今後、増加傾向にある在宅高齢者の健康・衛生保持の促進を図るため、事業実施の必要があるが、前年度からの継続利用者がほとんどの為、ケアマネ会議等で事業内容の周知を行い、新規利用者の増加を目指すため、継続してトータルサポート事業と連携し、広報・周知に努めていく必要がある。

(3) 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業

■ 寝具洗濯乾燥消毒サービス事業 《計画書 52 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
事業延べ利用人数(人)	175	228	180	198	185	192
寝具預利用枚数(枚)	460	594	470	511	480	506

【実施内容・実績】

65 歳以上の高齢者のみ世帯や要介護 3 以上の認定を受けた方、40 歳以上の寝たきり等の重度身体障がい者の方に対して、寝具の丸洗い・乾燥を行っている。

高齢者のみ世帯:144 人 要介護認定者:43 人 寝たきり等重度身体障害者:5 人

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年11月に実施したニーズ調査では13.1%の方が今後利用したい福祉サービスと回答したように、住民からの需要は非常に高い事業である。対象寝具はシングルサイズだったが、セミダブルやダブルサイズの要望もあったことから対象寝具の拡大の検討が必要である。

また、住民の生活実態で事業対象者の判断ができるよう、事業内容の見直しも課題としてあげられる。申請については引き続き、民生委員・ケアマネジャー・トータルサポートセンターと連携し、住民サービスに努めていく。

(4) はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業

■ はり、きゅう、マッサージ等の施術費用助成事業 《計画書 53 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
申請者数(人)	200	168	205	172	210	203
発行枚数(枚)	2,050	1,853	2,055	1,898	2,060	2090
延べ利用枚数(枚)	680	696	685	754	690	824

【実施内容・実績】

70 歳以上、または 65 歳以上で障害者手帳1・2級を持っている高齢者が、はり・きゅう・マッサージ等の施術を受ける場合、その費用の一部を助成している。(1 回あたり 1,000 円分の助成券)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年度までの申請者数は微増傾向であったが、令和5年度より防災無線等(Info Canal)による事業の周知を行った結果、申請者数の大幅な増加に繋がったため、今後も継続して事業の周知を行い、必要な住民がサービスを受けられるようにする。

(5) 外出支援事業

■ 外出支援事業 《計画書 53 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標 a 値	実績	目標値	実績
65 歳以上事業登録者(人)	570	433	580	546	590	685
延べ利用回数	—	—	—	—	—	—

【実施内容・実績】

令和元年度(2019 年度)7 月より企画政策課のデマンド交通と統合された。

令和4年10月より、土日祝日運行、運行時間の増便となった。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢者の登録者数は増加しており、令和 5 年度には目標値を上回った。

また、令和4年10月より、土日祝日も利用可能となっている。

要介護認定となった利用者が継続利用できなくなることと、運行区域外への送迎が課題としてあげられる。

(6) 寝たきり高齢者等紙おむつ支給事業

■ 寝たきり高齢者等紙おむつ支給事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
申請者数(人)	385	393	390	433	395	434
助成券発行枚数(枚)	4,180	4,364	4,190	4,861	4,200	4,686
紙おむつ給付券延べ利用枚数(枚)	2,750	2,815	2,770	2,902	2,790	2,896

【実施内容・実績】

在宅で介護認定を受けている高齢者の方に対して、利用類型4分類(最重度、重度、中度、軽度)に応じ給付券を支給している。

最重度:5,800 円 重度:4,200 円 中度:2,500 円 軽度:1,000 円 ※(1 割自己負担)

【自己評価(現状、課題と対応策)】

利用者が死亡・施設入所により事業対象外となるケースや、介護認定区分の変更によりおむつ給付券の利用類型も変更となるケースが生じている。介護情報、ケアマネジャーと連携し事業対象者への周知を行っている。利用者やケアマネからの問い合わせも多く、年度ごとの勧奨通知については漏れなく実施していく必要がある。

助成費用額については、今後も増加が見込まれることが課題となる。

今後、要介護等認定者等の増加が見込まれるため、実態に合わせた事業内容を検討していく。

(7) 高齢者温泉無料開放事業

■ 高齢者温泉無料開放事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
無料証明書発行枚数(枚)	—	—	—	—	—	—

【実施内容・実績】

令和2年度より事業中止

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和2年度より事業中止

(8) 軽度生活援助事業

■ 軽度生活援助事業 《計画書 54 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
利用者数(人)	5	4	6	5	7	5
延べ利用回数(回)	145	107	150	91	155	65

【実施内容・実績】

65 歳以上で介護保険対象外の方に、訪問介護員を派遣し家事援助サービス(室内の整理・整頓、外出時の援助、食事・食材の確保、寝具類等の日干し、その他軽微な援助)を提供している。

なお、利用者に求められているサービスとしては、室内の整理・整頓や、食事・食材の確保が主な実績となる。

指定事業所数:1 事業所

【自己評価(現状、課題と対応策)】

在宅高齢者の自立生活をサポートし、介護予防を図る上でも継続事業実施が必要となる。利用者数が増えた場合、現在の指定事業所のみでは事業対応できなくなるのが課題として挙げられる。

必要とする方がサービスに繋がるよう、トータルサポート事業と連携し、広報・周知に努め高齢者の日常生活の支援を行っていく。また、新たな指定事業所での事業実施も検討していく。

2. 敬老事業

(1) 敬老祝金

■ 敬老祝金 《計画書 55 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
敬老祝金支給額(千円)	11,755	10,805	13,170	11,360	12,383	12,278

【実施内容・実績】

9月15日を基準日とし、1年以上村に住民登録している満75歳以上の方に対して5,000円の敬老祝金を支給している。

令和3年度 対象者 2,162名、令和4年度 対象者 2,272名、令和5年度 対象者 2,367名に敬老祝金の支給を行った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年11月に実施したニーズ調査では、現行どおり今後も継続して支給すべきが49.0%最も高い結果となった。令和5年度は、敬老事業検討委員会を3回開催し、敬老事業の方向性の検討を行った。その結果を踏まえ、令和6年度は、75歳以上の対象者に5,000円の敬老祝金を支給する。ただし、80歳、88歳、90歳、99歳以上である者については、10,000円を支給する。

(2) 百歳高齢者賀寿

■ 百歳高齢者賀寿 《計画書 55 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
支給対象件数(件)	6	5	5	5	9	1

【実施内容・実績】

令和3年度 対象者 5名、令和4年度 対象者 5名、令和5年度 対象者 1名に、祝状及び祝金100,000円を贈呈した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

感染症対策として、進達で実施してきた。今後は親族の意向を聞きながら希望者には式典形式による贈呈にも対応していく。

(3) 敬老会

■ 敬老会 《計画書 56 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
出席者数(人)	190	20	200	37	220	56
出席率(%)	14.64	19.80	14.81	14.57	15.7	21.9

【実施内容・実績】

規模縮小とし対象者を80歳傘寿、88歳米寿、しあわせ金婚夫婦とし村保健福祉センターで開催した。

令和3年度 対象者:67名(米寿)、34名(しあわせ金婚夫婦)※17組

令和4年度 対象者:130名(傘寿)、76名(米寿)、48名(しあわせ金婚夫婦)※24組
令和5年度 対象者:136名(傘寿)、80名(米寿)、40名(しあわせ金婚夫婦)※20組

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和4年11月に実施したニーズ調査では、現在実施している80歳や88歳など、一定の年齢の高齢者を対象に開催が49.6%と最も高い結果となった。
令和5年度は、敬老事業検討委員会を3回開催し、敬老事業の方向性の検討を行った。その結果を踏まえ、令和6年度は、対象者に77歳を追加し開催する。

3. 認知症施策の推進

(1) 認知症に対する正しい知識の普及推進

■ 普及啓発等 《計画書 56 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
認知症サポーター数(人) ※認知症サポーター養成講座受講者数(延べ人数)	1,540	1,167	2,100	1,380	2,600	1596
認知症サポーターステップアップ講座の開催(回)	1	0	1	0	2	1
アルツハイマー月間に伴う普及啓発活動(回)	1	1	1	2	1	2

【実施内容・実績】

認知症の方が安心して暮らせる村づくりを目指して、認知症サポーター養成講座を村民・学校向けに開催し、幅広い世代及び職種の方へ認知症について正しい知識の理解と普及啓発を推進するとともに、地域の見守りの強化を図っている。中学生向けの認知症サポーター養成講座と一般村民向けの認知症サポーター養成講座を実施している。認知症サポーター養成講座受講者にステップアップ講座を受講していただき、今後は村の認知症施策への協力にも繋げていきたい。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

世界アルツハイマー月間に認知症に関する広報活動を行っているが、認知症の相談窓口について、認知度が低い事が課題としてあげられる。引き続き村広報誌やホームページ等を活用し、早期に相談につながるような工夫を行っていく。
今後も認知症サポーター養成講座により認知症サポーターを育成することにより、認知症の方、その家族への支援者を増やし、認知症の方が安心して暮らせる村を目指していく。

(2) 認知症の早期発見や見守り体制整備

■ 見守り体制の整備 《計画書 57 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
チームオレンジの構築(回)	0	0	1	0	2	0
見守り・搜索システムの導入(件)	0	0	1	0	1	0

【実施内容・実績】

村地域包括支援センターにコーディネーターとしての役を担う認知症地域支援推進員を配置し、認知症施策や認知症に関する事業の企画調整等を行っている。

加えて、認知症サポーター養成講座を開催することにより認知症サポーターを増やすことにより、地域の見守り支援を行える人員の育成を進めている。

令和5年2月に民生委員に対し、圏域別ケア会議で認知症高齢者等の見守り体制整備についての課題をアンケート調査した。また、3月に村内居宅介護支援事業所に対し、同アンケート調査を実施した。

認知症推進員の活動(相談支援):令和3年度 100件 令和4年度:96件 令和5年度 129件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

圏域別地域ケア会議において民生委員等と共に、地域のニーズや実情に応じた高齢者の見守り体制を検討した。会議の中で、認知症による徘徊などに対する地域の見守り体制が必要であるとの課題があがった。そのため、令和5年度「西郷村高齢者等おかえり・見守り事前登録事業」を開始し、認知症の方や、その家族が安心して暮らせる体制整備を進めた。また、令和6年度より「西郷村地域見守り安心ネットワーク事業」を開始し、地域住民が安心して暮らせる地域を目指していく。

チームオレンジについては、国の施策により令和7年度末までに地域ごとに構築することが目標になっている。しかし現時点では、村におけるチームオレンジの活動内容やメンバー構成など課題があるため、具体的な方向性を決定していく。

*チームオレンジとは認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援を行う取り組み。

(3) 認知症の予防

■ 認知症の予防 《計画書 57 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
認知症カフェ(設置数)	1	1	2	2	3	3

【実施内容・実績】

認知症カフェは、認知症の本人及び家族が身近な場所で、医療・保健・福祉の専門職に相談しながら、地域住民と交流ができる場、気軽に情報交換できる場として設置している。令和3年度までは感染症対策のため実施は控えていたが、令和4年度以降は少人数、短時間でのカフェを開催し、徐々に開催回数や参加人数を増やしている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

カフェ開催時にも高齢者の相談窓口を設置し、休日しか相談に来られない方への介護申請等の対応も行うことができています。しかし、カフェの認知度が低いことが課題としてあげられ、今後は様々な媒体を通じた周知、広報活動をしていく必要がある。

認知症の予防には、孤立の解消や社会参加が重要であることから、認知症カフェの役割は大きい。今後も、気軽に参加できる場として、認知症カフェの周知と開催に取り組んでいく。

4. 高齢者の権利擁護の推進

(1) 権利擁護に関する取組の充実

■ 権利擁護事業 《計画書 58 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
成年後見制度の活用促進(件)	6	45	7	36	8	61
高齢者虐待への対応(件)	0	11	0	9	—	18
困難事例への対応(件)	40	38	40	23	40	28
その他権利擁護相談件数(件)	10	16	10	7	10	5

【実施内容・実績】

高齢者の人権や財産等の権利を守る「権利擁護」については、重要なテーマとなっており成年後見制度の活用促進、高齢者虐待への対応、困難事例への対応、消費者被害の対応について相談・対応件数が増加している。

成年後見制度の利用促進の体制整備として、令和3年度より、西白河郡の5市町村が共同で、行政(高齢・障がい)、家庭裁判所、専門職(弁護士・司法書士・社会福祉士・社会福祉協議会)、関係機関(地域包括支援センター・基幹相談支援センター)等から構成される「しらかわ地域成年後見推進会議」を設置し、困難ケースや地域課題の検討・調整・解決を図っている。

また、成年後見の申立てを行う親族がいない場合には、「成年後見制度利用支援事業」により村長申立を検討・対応している。

成年後見制度利用支援事業（村長申立）令和4年度:1件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

高齢化や核家族化の進展により、高齢者の困難事例が増加している状況である。地域住民や、民生児童委員、ケアマネジャー等の支援だけでは十分に問題解決ができない、適切なサービスにつながる方法がみつからない等、困難な状況にある高齢者が、地域において安心して尊厳のある生活ができるよう、専門的・継続的な視点から支援を行う必要がある。

令和5年12月に住民向けの成年後見制度講演会を実施した。初めての実施だったものの、参加者は計37名であり、成年後見制度への関心の高さが伺えた。講演会で実施したアンケートからはまだまだ周知が不足しているということが伺えた。今後も広報・周知内容の検討が必要である。(村民向け講演会の実施や成年後見支援センターに関する広報など)

成年後見支援センター業務:令和3年度 71件 令和4年度 50件 令和5年度 61件

(2) 虐待防止への取組の推進

■ 虐待防止 《計画書 59 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
虐待防止ネットワーク委員会の開催(回)	1	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

高齢者虐待を防止するためには、福祉・保健・医療等の関係機関とともに地域が、それぞれの立場で、虐待を受けている高齢者のサインを敏感に察知して気付くことが重要であることから、民生児童委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、介護事業所、警察等と連携を図りながら高齢者虐待の未然防止と早期発見、迅速な対応に努めている。

また、被虐待高齢者保護の観点から村内の特別養護老人ホーム福島県やまぶき荘と保護に関する協定を毎年締結し、虐待事案発生時の早期対応に備えている。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

個別案件については村と包括支援センターが連携し対応している。高齢者人口の増加に伴い、今後も高齢者虐待のリスクが増加することが予測されるため、通報があった際の状況確認を迅速に行うことや、相談者と不定期に連絡や訪問を行うなど、見守り体制の構築も必要である。

また、緊急保護が必要となった際に、協定を結んでいる事業所が受け入れできない状況も想定されるため、村内の事業所と協議し、協定事業所の拡大を行っていく。

今後も、引き続き関係機関との連携強化に努めると共に、村の虐待防止対応マニュアルの内容の精査も課題として挙げられる。

5. 高齢者にやさしいまちづくりの推進

(1) ユニバーサルデザインのまちづくりの推進

① 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業

■ 高齢者にやさしい住まいづくり助成事業 《計画書 59 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
住宅改修件数(件)	34	40	38	32	42	37
住宅改修費(千円)	3,000	3,973	3,400	3,027	3,800	3,874

【実施内容・実績】

高齢者が自宅において転倒等により要介護・要支援状態とならないよう、自立した在宅生活の継続を促進するために、住宅改修を実施する方へ改修費用の一部を助成している。

令和5年度実績

改修内容：手すりの取付 31件 段差解消 13件 床材変更 1件 洋式便座への取替 1件

【自己評価(現状、課題と対応策)】

広報での周知や、トータルサポート事業の訪問等で本事業が広く認知されてきている。

利用者の希望やどのような改修が必要か内容の確認を行うとともに、工事着手前と竣工時に検査を行い適正な助成を行う。

今後も高齢者の介護予防及び自立した在宅生活継続のため、村地域包括支援センターと連携を図りながら迅速な対応に努める。

(2) 災害時における体制整備

① 災害時要援護者支援事業

■ 災害時要援護者支援事業 《計画書 60 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
75歳以上高齢者独居及び高齢者のみ世帯情報提供回数(回)	2	2	2	2	2	2
介護認定者情報提供回数(回)	2	2	2	2	2	2

② 連絡体制等の整備

■ 連絡体制等の整備 《計画書 60 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
関係機関との連携会議(回)	1	1	1	1	1	1

【実施内容・実績】

災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障がい者等を「避難行動要支援者」とし

て名簿を作成し、災害に備えて地域全体で支援していく為に、各行政区長及び民生委員に情報の共有を図った。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

避難行動要支援者名簿の作成については、作成時と活用時の情報取得の時間差があったので令和5年度末よりシステムを導入し、以前のやり方より正確な情報をもとに作成することが出来るようする。今後、システムを活用し個別避難計画の策定へ努める。

(3)感染症対策に係る体制整備

■ 感染症対策に係る体制整備 《計画書 61 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
介護保険事業所の備蓄(%)	100	100	100	100	100	100

【実施内容・実績】

新型コロナウイルス感染症に関連した感染症拡大防止のための衛生・防護用品の備蓄の推奨と体制整備の方法について介護保険事業所と情報共有を行った。村でも緊急時に備えて備蓄の確保に努めた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

新型コロナウイルス感染症が感染症法の2類感染症から5類感染症に移行したことで、様々な制限が緩和された。しかし、今後も新型コロナウイルスのような新興感染症の発生が懸念されるため、平時から介護保険施設や事業所等との連携に努め、感染拡大防止策の情報提供や啓発を実施し、感染症に対する備えを進めていく。

基本目標4 利用者本位の介護保険事業の推進

1. 介護保険サービスの充実

(1) 介護保険サービス基盤整備

■ 施設の整備 《計画書 62 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
地域密着型特別養護老人ホームの整備(箇所)	0	0	0	0	1	1
認知症グループホームの整備(箇所)	2	2	2	2	3	2

【実施内容・実績】

令和3年度に認知症グループホーム整備事業者を公募し(1社)決定したが、昨今の社会情勢による物価高騰などの影響で計画を断念し実現には至らなかった。

また、地域密着型特別養護老人ホームの整備についても実現できなかったが、介護保険事業計画を変更し、令和4年度に広域型特別養護老人ホームの整備に着手し令和6年4月より運営を開始している。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和6年4月に広域型特別養護老人ホーム(1施設)が開所になり、施設入所待機者の解消が図られる見込みである。

また、今後は地域密着型サービスを中心とした福祉タウン構想を実現し、地域包括ケアシステムの深化・推進を図るとともに、高齢者が安心・安全に暮らせる環境を整備していく。

(2) 介護保険サービス事業者への支援及び指導・助言

① 居宅支援事業者への支援

■ 居宅支援事業者への支援 《計画書 62 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
居宅介護支援事業所への運営指導(件)	2	1	2	1	2	1

【実施内容・実績】

居宅介護支援事業所については、ケアマネ会議等で勉強会や指導・助言を行いケアマネジャーの資質向上に努めており、各年度の運営指導については1件ずつ実施しており、運営指導当日には、事前提出の書類及び当日閲覧した書類についてヒアリング等を実施し、各事業所の運営状況等について大きな問題が無い事が確認できた。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

介護保険法の改正に伴い、令和4年度に実地指導から運営指導へと名称が変更されており、オンライン会議ツール等を用いての実施も可能となっているが、村では、新型コロナウイルス感染症流行の影響から人数を制限して実地で実施した。

今後はオンライン会議ツールの活用も視野に、事業所の状況等も考慮して柔軟に対応できるように整備をしていく必要がある。

②地域密着型サービス事業所への支援

■ 地域密着型サービス事業所への支援 《計画書 63 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
地域密着型サービス運営委員会の開催(回)	2	4	2	1	2	2
地域密着型サービス事業所への運営指導(件)	1	0	1	1	1	1

【実施内容・実績】

地域密着型サービス事業所の運営指導を実施しており、事業所に対し、介護保険制度に基づく連絡事項の伝達、各文書の確認、介護保険制度に関する説明等を行った。

また、運営指導の中で判明した指摘事項、指導内容について各事業所へ伝え、対応に関する報告を受け、必要に応じて県や他市町村とも連携して対応した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

令和5年度より新規に地域密着型通所介護事業所が開業しており、運営や制度に関する質問を受けることがあったため、今後の事業の参考としたい。

また、国の介護保険制度の改正の時期でもあるため、村でも情報を収集し、内容に応じて必要な情報を各事業所に伝えていく必要がある。

改正内容への対応について、各事業所と協力して取り組んでいきたい。

2. 介護保険事業の適正・円滑な運営

(1) 介護給付適正化に向けた取組の推進

■ 介護給付適正化に向けた取組の推進 《計画書 63 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
例外給付に係るケアプランの点検率(%)	100	100	100	100	100	100
介護給付費の通知送付率(%)	100	100	100	100	100	100

【実施内容・実績】

介護給付適正化事業の主要5事業(ケアプランの点検、介護給付費の通知、認定調査状況の確認、住宅改修・福祉用具実態調査、医療情報との突合)を実施している。

特にケアプランの点検及び介護給付費の通知に重点を置き、利用者の自立支援や介護給付の適正化につながるよう支援している。

ケアプランの点検については、以前より例外給付や自立支援会議での事例を点検してきた。令和3年度からケアプラン点検事業を実施しており、令和5年度も1事業所にて8件(ケアマネジャー1名につき2件)のケアプラン点検を実施した。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

ケアプラン点検を実施し、基本となる事項を介護支援専門員とともに検証することでケアマネの「気づき」を促すことができた。村内に居宅介護支援事業所は6か所あり、1年に1事業所ずつ点検を行っていく。

給付適正化事業について、今後も引き続き主要事業を実施していく。

(2) 低所得者対策の推進

■ 生活困難者に対する利用者負担軽減措置事業 《計画書 64 ページ》

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	目標値	実績値	目標値	実績	目標値	実績
利用者軽減件数(人)	10	6	12	4	14	7
低所得者の介護保険料の軽減(人)	1,200	1,178	1,300	1,263	1,400	1,310

【実施内容・実績】

○社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度

低所得で生活困難な方の介護保険サービスの利用促進を図るため、介護保険サービスの提供を行う社会福祉法人等が、その社会的な役割の一環として利用者負担額の軽減を図る。

○低所得者保険料軽減負担金事業

住民税非課税世帯（所得段階第1、2、3段階）の方の介護保険料の一部を負担し経済的負担の軽減を図る。

【自己評価(現状、課題と対応策)】

施設に協力を依頼し、対象者の把握及び負担軽減証の発行を行った。広報、ホームページでの掲載により新規の方が申請に至り対象者となっている。また、低所得者層への介護保険料の軽減を実施し生活の安定を図った。引き続き事業の周知を行い、低所得者の経済的負担の軽減を図っていく。